

小学校図画工作科においては、令和4年度発信コンテンツ「題材デザイン FIRST STEP」を御参照ください。

小学校第4学年 図画工作科学習指導案

1 題材名 色合いひびき合い（日本文教出版 ためしたよ 見つけたよ 図画工作3・4下 pp. 22-23）

2 題材について

(1) 題材観

本題材は、B鑑賞(1)アのうち、「自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方について、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる」という内容である。指で絵の具を混ぜて色カードを制作する活動を通して、色の混ざり方や形が変化していく面白さを味わい、児童が自分の感覚や行為を通して分かった、色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや面白さなどについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げることがをねらいとする。指を使った絵の具の混ぜ方には、「ぐるぐる円を描くように」「とんとん叩くように」「ごしごし擦るように」など、様々考えられる。その混ぜ方によって感じる印象も変わり、色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じなどによって、児童それぞれが多様なイメージをもつことができる。自分が制作した色カードについて友人と話し合ったり、グループで色カードを並べたりする活動を通して、自分の色や形、それらの組合せなどについての見方や感じ方を広げることができる。

(2) 児童観

(略)

(3) 指導観

指導に当たっては、鑑賞する形態を、お気に入りの色カードを選ぶ活動、グループで色カードを並べる活動、1人1台端末を活用して撮影する活動と多様にする中で、自分の造形的なよさや面白さなどについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げることができるようにしたい。

1時目は、まず、教師が制作した色カードを提示し、「どのような色を混ぜたのか。」「どのような混ぜ方をしているか。」「どのようなイメージをもつか。」などと問い掛けながら、色カードの制作に対する意欲を引き出していく。そして「思いのままに指で色をまぜて、できる色や形を楽しもう。」とめあてを設定し、指で絵の具を混ぜ、その混ざる様子を楽しみながら色カードを制作する活動を行う。活動中は常に児童の様子を見取り、使った色や混ぜ方について意図を尋ねたり、児童の気づきを賞賛したりすることで、更に意欲をもって活動に取り組むことができるようにする。その後、制作した色カードの中から、お気に入りの色カードを1枚選び、その理由をワークシートに記入する活動を行うことで、児童が色や形、それらの組合せなどに着目できるようにする。

2時目は、「グループで色カードを見くらべながら、すてきにならべよう。」とめあてを設定し、グループで模造紙に色カードを並べる活動を行う。何を基準に並べるか、どのような形に並べるかという並べる際の具体的な視点は、グループで話し合いながら決めるよう伝える。活動中はグループを回り、並べた意図を尋ねたり、並べた様子を賞賛したりすることで、児童が色や形、それらの組合せなどに着目しながら話し合ったり並べ替える活動に取り組んだりできるようにする。その後、素敵だと感じる部分を1人1台端末で撮影する活動を行うことで、自分の色や形、それらの組合せなどに着目した見方や感じ方を広げることができるようにする。振り返りの場面では、「色や形、それらの組合せのどのようなところに着目して活動をしたか。」という造形的な視点を提示するとともに、友人との関わりについても記述するよう伝えることで、自分の色や形、それらの組合せなどについての見方や感じ方の広がりを実感できるようにする。

3 題材の目標

- (1) 指で絵の具を混ぜるときの感覚や行為を通して、色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じなどが分かる。
- (2) 色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、自分や友人が制作した色カードの造形的なよさや面白さなどについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
- (3) つくりだす喜びを味わい、進んで指で絵の具を混ぜて表現したり、色や形、それらの組合せなどを鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
指で絵の具を混ぜるときの感覚や行為を通して、色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じなどが分かっている。	色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、自分や友人が制作した色カードの造形的なよさや面白さなどについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	つくりだす喜びを味わい、進んで指で絵の具を混ぜて表現したり、色や形、それらの組合せなどを鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

5 材料・用具と場の設定

- (1) 材料・用具
 - ・水彩絵の具 ・ 1人1台端末 ・ 6cm四方の画用紙（1人当たり10枚程度） ・ 水入れ ・ 新聞紙
 - ・ 模造紙（4～5人分の色カードを並べられる程度） ・ ウェットティッシュ（グループに1パック）
- (2) 場の設定
 - ・ 1時目は、互いの色カード制作の様子が見えるように机を班の形にして、活動を行う。
 - ・ 2時目は、並べたカード全体が見えるように模造紙を床に広げ、活動を行う。

6 題材の指導と評価の計画（○…指導に生かす評価 ◎…記録に残す評価）

時間	●学習のねらい ・学習活動	知識	技能	思考・判断・表現		態度	留意点
				発想や構想	鑑賞		
1	<p>●指で絵の具を混ぜるときの感覚や行為を通して、色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じなどが分かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指で絵の具を混ぜて、色カードを制作する。 制作した色カードの中から、お気に入りの色カードを1枚選ぶ。 	○ ◎ 観察 対話 色カード	—	—	—		<p>「知識」については、色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じなどについて、児童の様子を観察する、問い掛ける、色カードを確認する、児童の様子をデジタルカメラで記録するなどして学習状況を把握し、記録に残す。</p>
2	<p>●色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、自分や友人の制作した色カードの造形的なよさや面白さなどについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで色カードを見比べながら並べる。 並べた色カードの中から素敵だと思う部分を見つけ、1人1台端末で撮影する。 	—	—	—	◎ 観察 対話 発言 ワークシート	◎ 観察 対話 発言 色カード ワークシート	<p>「思考・判断・表現（鑑賞）」については、児童の様子を観察する、問い掛ける、児童の様子をデジタルカメラで記録する、ワークシートを確認するなどして、全員の学習状況を把握し、記録に残す。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」については、活動を通して観察する、授業後や題材終末に振り返りを行う、児童の様子をデジタルカメラで記録する、色カードやワークシートを確認するなどして、全員の学習状況を把握し、記録に残す。</p>

7 本時の目標

- 指で絵の具を混ぜるときの感覚や行為を通して、色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じなどが分かる。
- 色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、自分や友人が制作した色カードの造形的なよさや面白さなどについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
- つくりだす喜びを味わい、進んで指で絵の具を混ぜて表現したり、色や形、それらの組合せなどを鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

8 本時の展開（1～2/2）

時	過程	学習活動	・指導上の留意点 口評価規準【評価方法】	
1	導入	1 学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の色カード制作への意欲を引き出すために、教師の色カードを提示し、感じたことや気付いたことを尋ねる。さらに、制作への意欲を高めるために、指を使って絵の具を混ぜることで、様々な色や形ができることを伝える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 色カードを見るとき鑑賞の視点 <ul style="list-style-type: none"> ・何色が見えますか？ ・どのような混ぜ方をしていますか？ ・どのようなことをイメージしましたか？ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> めあて1 思いのままに指で色をまぜて、できる色や形を楽しもう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・本時では、描きたいものを決めて描くのではなく、思いのままに色や形を表現する活動を行うことを伝える。 	
	展開①	2 指で絵の具を混ぜて、色カードを制作する。	<ul style="list-style-type: none"> ・友人の活動を参考にすることができるように、机はグループにする。 ・多様な色づくりや混ぜ方ができるように、色カードは何枚も制作してよいことを伝える。 ・色の数は制限をしないが、色を変えたり追加したりする場合には、指についた絵の具を拭き取ってから混ぜるように指導する。 ・指を使った活動に難色を示す児童に対しては、ビニールの手袋を渡す。 ・制作した色カードは、乾かすために机の上に並べるように伝える。その際、意図をもって並べている児童がいれば、その意図を尋ねる。 ・児童の色の混ぜ方に着目しながら観察し、新しい混ぜ方をしている児童を見付けて、ほかの児童が共有できるように紹介する。 ・混ぜた色や混ぜ方によるイメージについて発言したりつぶやいたりしている児童を見付け、適宜、紹介する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 予想される児童の反応 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 混ぜ方について <ul style="list-style-type: none"> ・ぐるぐる円を描くように混ぜたら流れているみたいになるよ。 ・とんとん叩くようにすると、指の跡が付いて面白い。 ・ごしごし擦るように混ぜると、かすれてきれい。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 色について <ul style="list-style-type: none"> ・青と白を混ぜたら、海みたいになった。 ・赤と橙を混ぜたら、暖かい感じがする。 ・たくさん色を混ぜると暗い色になる。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 形について <ul style="list-style-type: none"> ・ぐるぐる混ぜたら、丸い形になった。 ・カード全体を塗ると、四角になるね。 ・絵の具が多いと、でこぼこになったよ。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; background-color: #e6f2ff;"> 知識 指で絵の具を混ぜるときの感覚や行為を通して、色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じなどが分かる。 【観察・対話・色カード】 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; background-color: #fff9c4;"> 態度 進んでお気に入りの色カードを選び、色や形、それらの組合せなどを鑑賞しようとしている。 【観察・色カード・ワークシート】 </div> 3 お気に入りの色カードを1枚選び、その理由をワークシートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・制作した色カードの中から、お気に入りの色カードを1枚選び、その理由をワークシートに記入する活動を通して、色や形、それらの組合せに着目できるようにする。

2	展開②	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">めあて2 グループで色カードを見くらべながら、すてきにならべよう。</p> <p>4 グループで色カードを見比べながら並べる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>予想される児童の反応</p> <p>色の組合せについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じような色を並べると、だんだん色が変わって行くようで、きれい。 ・自分のお気に入りカードが目立つようになるときに補色を並べたよ。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>形について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丸い形を集めて並べたら目が回りそうになった。 ・四角の色カードを集めて四角に並べたら、かくかくしていて面白いよ。 </div> <p>5 並べたカードを撮影したのについて学級全体で話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が、色や形、それらの組合せなどに着目しやすくするために、白い模造紙を各グループに準備する。 ・児童に声掛けや発問をすることで、何を基準に並べているのか児童の考えを把握する。 ・並べた意図を尋ねたり、並べた様子を賞賛したりすることで、児童が色や形、それらの組合せなどに着目しながら話し合ったり並べ替える活動に取り組んだりできるようにする。 <div style="background-color: #fff9c4; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>態度色や形、それらの組合せなどに着目し、色カードを見比べながら並べようとしている。</p> <p style="text-align: right;">【観察・対話・発言】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・模造紙に並べた色カードの全体や素敵だと感じる部分を、1人1台端末で撮影する活動を通して、色や形、それらの組合せなどに着目した見方や感じ方を広げることができるようにする。 ・児童が撮影することで、それぞれの児童がどのような造形的な視点をもって鑑賞しているのかを自覚できるようにする。 <p>・素敵だと感じた部分を友人と話し合ったり、学級全体で共有したりすることで、色や形、それらの組合せなどについての見方や感じ方を広げることができるようにする。</p> <div style="background-color: #e8f5e9; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>思・判・表（鑑賞）色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、自分や友人が制作した色カードの造形的なよさや面白さなどについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</p> <p style="text-align: right;">【観察・対話・発言・ワークシート】</p> </div>
終末		<p>6 学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「色や形、それらの組合せのどのようなところに着目して活動をしたか。」という造形的な視点を提示し、友人の発言や考えについて振り返る活動を設定することで、児童が自分の見方や感じ方が広がることを実感できるようにする。

9 本時の評価規準と判定基準（判断の目安）

本時の評価規準 【評価方法】		判断のポイントと指導の手立て (☆Bの具体例 ◆Cへの手立て)
知識	<p>指で絵の具を混ぜるときの感覚や行為を通して、色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じなどが分かっている。</p> <p>【観察・対話・色カード】</p>	<p>☆指で絵の具を混ぜるときの感覚や行為を通して、色の変化や混ぜ方、それらの組合せによる感じなどが分かる。</p> <p>◆色の变化や混ぜ方、それらの組合せによる感じなどが分かるよう、周囲の友人の様子や色カードを観察することを促したり、教師が問い掛けたりする。</p>
思考・判断・表現	<p>色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、自分や友人が制作した色カードの造形的なよさや面白さなどについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</p> <p>【観察・対話・発言・ワークシート】</p>	<p>☆色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じなどの造形的な視点をもって、お気に入りの色カードを選んだ理由を文章に表したり色カードの並べ方を話し合ったりしながら、自分の見方や考え方を広げている。</p> <p>◆お気に入りの決め、その理由を考えることができるように、視点を1つずつ提示する。また、色カードを並べる際には、友人の色カードとの共通点や相違点などに着目できるように声を掛ける。</p>
態度	<p>つくりだす喜びを味わい、進んで指で絵の具を混ぜて表現したり、色や形、それらの組合せなどを鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>【観察・対話・発言・色カード・ワークシート】</p>	<p>☆進んで色が混ざる様子を楽しみながら色カードを作り、色や形、それらの組合せなどに着目しながら色カードを選んだり、並べたりしようとしている。</p> <p>◆児童の意欲を引き出すために、色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じなどについて問い掛け、気付いたことやできそうなこと、感じたことなどを尋ねる。</p>